

令和8年8月26日
北九州市財政・変革局

令和7年度 決算の概要

令和8年度 9月補正予算案

財政・変革局



膨張圧力が続く中でも「成長への好循環」が着実に動き出し

その成果が具体的な形となって現れ始めた決算



過去最高

市税収入
+1,911 億円
(前年度比+109億円)

次世代投資枠
238 億円
(R6・R7)

16年ぶりに減少

市債残高
1兆1,852 億円
(前年度比△205億円)

【問合せ先】
財政・変革局 財政課
担当：(課長) 喜多川
電話：093-582-2002

市税決算の特徴

民間企業による積極的な投資が税収の増加にもつながり、
「稼げるまち」に向けた取組の成果が着実に現れ始めた。

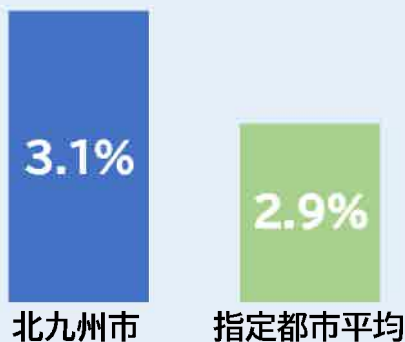
【各税目の税収伸び率】

固定資産税(建物分)

〔指定都市順位〕



〔指定都市平均比較〕

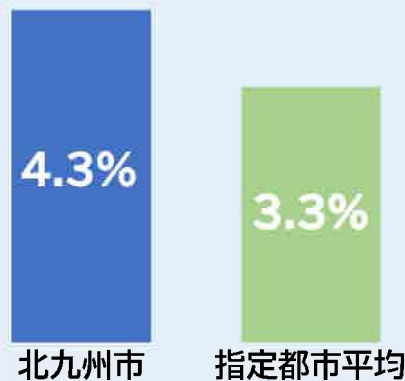


固定資産税(設備投資分)

〔指定都市順位〕



〔指定都市平均比較〕

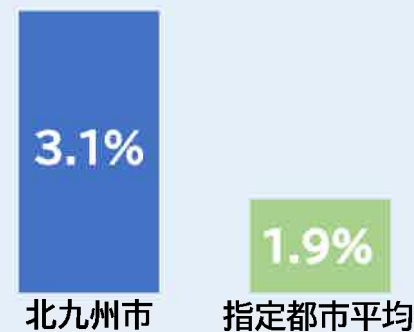


事業所税

〔指定都市順位〕



〔指定都市平均比較〕



令和7年度の主な成果

2年連続プラス
人口の社会動態
+443人

3年連続過去最高
進出企業等の投資決定額
7,777億円

3年連続過去最高
U・Iターン
就職決定者数
298人

“初”の30億円突破
ふるさと寄附金
受入金額
31億円

2年連続過去最高
北九州空港
貨物取扱量
41,092トン

3年連続過去最高
小倉城入場者数
約35万人



Woman's リアル
VOICE
プロジェクトの実施



「すしの都課」創設
すしをフックとした
食のブランディングを強化



新たな都市像を発信
『Next Horizon
Sustainable City』

令和8年度9月補正予算案

一般会計

27 億円



物価高から企業とくらしを守る

8.9 億円

中小企業支援など



安心して過ごせる都市・生活基盤の整備

14 億円

安全・快適に利用できる道路環境の改善など



次世代まちづくりの推進

0.5 億円

北九州2043・フィジカルAI共生都市関連



地域活動・支えあいの推進

0.2 億円

部活動地域展開事業など

※その他、市税の還付に要する経費の増額など3.6億円

物価高から企業とくらしを守る

総額

8.9億円

中小企業コスト
上昇対策支援

7億8,400万円

燃料費等のコスト上昇により
経営環境が厳しい
市内中小企業等に
1事業者あたり10万円の支援

卒業・進学応援
学校給食費免除事業

9,600万円

卒業・進学を控えた
市立中学校3年生の
学校給食費の保護者負担額を
免除（R9.1月～3月分）

食料支援を通じた
生活支援

1,000万円

地域団体や子ども食堂
を通じた食料支援・自立支援

安全・快適に利用できる道路環境の改善

市民が安全に利用できるよう 道路環境を改善

総額

4.9億円

【整備内容】自転車レーン（路面表示）・区画線・舗装の更新や街路樹の剪定、植え込みの改修 など

現況



整備後



まちづくり推進・投資価値向上事業

総額

2,000万円

「北九州2043」の実現に向けた取組

- ◇市民全体での議論促進の取組
- ◇民間投資促進に向けた調査検討
- ◇北九州2043の戦略的プロモーション

小倉ブースト

黒崎リバイバル

フィジカルAI共生都市推進事業

総額

3,100万円

「フィジカルAI共生都市」の実現に向けた

共生都市モデル構築予算

- ◇社会実装の推進（フィジカルAIサンドボックス）
- ◇事業化・産業集積の推進（フィジカルAI社会実装LABO）
- ◇研究開発・人材育成（匠プロジェクト）
- ◇デジタルインフラと地域との共生に向けた枠組みづくり



デジタルインフラと地域との共生に向けた枠組みづくり

※フィジカルAI共生都市推進事業の内数

庁内プロジェクトチームの設置

関係部局で構成する庁内横断的なプロジェクトチームを設置し、国内外の先進事例の調査・分析や、デジタルインフラと地域との共生に向けた先駆的な知見の収集・検討を行う。

有識者会議の開催

デジタルインフラと地域との共生に向けた先駆的な枠組みづくりを検討するため、学識経験者や関係分野の専門家等で構成する有識者会議を開催する。

「北九州デジタル共生プラットフォーム」(仮称)の構築

市民が新しい技術を知り、暮らしとの関わりについて理解を深め、意見を寄せ、専門家や企業、行政とともに対話する共生の基盤づくりの検討を行う。